

出前講座報告書

実施日時	2021 年 8 月 29 日 12:30～13:30	主催者名	東部仲町町会
講師名	津川俊彦	会場名	社会福祉センター
テーマ	感染から我が身を守る方法		
参加人数	21 人	報告者	鈴木健仁 津川俊彦

《質問された内容など》

【講座内容】

○PCR 検査

- ・検査陽性→ウィルスの検出(ウィルスが生きているか、細胞に感染、発症、他人に感染はわからない)
- ・感染→ウィルスが細胞に入る。症状が出るかは不明。・発症→症状を認める。発症している人(患者)。
- ・PCR 検査陽性≠感染者、発症者 症状が出てはじめて患者

○新型コロナ治る人、重症化する人

- ・自然免疫(侵入してきた病原体にすぐ反応)、獲得免疫(第二の免疫反応)
- ・自然免疫が弱いと、獲得免疫が一斉に攻撃、過剰反応

○対処療法

- ・症状をとる、検査の値をよくする。

○他者軸と自分軸

- ・他者軸(手洗い、マスク、薬等)自分軸(免疫力、抵抗力、解毒力)

○薬、ワクチン

- ・メリットもあるがデメリットもある。

○免疫力を高めるために

- ・腸内細菌が重要。(善玉菌を働かせるには、悪玉菌も必要)

○自然治癒力を高める

- ・起床、食事、就寝時間を一定に。睡眠と休息、適度な運動。ストレスをためない。

【質問内容】

Q 新型コロナ感染症が 1 年半続いているが、去年の今頃は来年には治まると言われていたが、終息に向かう感じがしない。どうしてか？

A 過去に大流行したスペイン風邪のように感染者が増えて少なくなって、また増えて少なくなると山がだんだん小さくなってウィルスは弱毒化していく。また、ワクチンを打つことによって治まると言われていたが、その気配はない。国民の大半が 2 回目のワクチンを終えたイスラエルではブレイクスルー感染が起きて 3 回目を打つ、日本も 3 回目を確保する動きあり。イギリスでも変異株で感染が広がり治まることは難しい。このコロナを終わらせるには、診断に不向きな研究用の PCR 検査の問題(陽性者≠感染者)と法律上の新型コロナ感染症の位置づけもあると思う。現在、新型コロナ感染症は、指定感染症の分類において 2 類でランク上位の対応で保健所管轄になっているので、陽性者は原則入院隔離され、医療機関の対応も大変になっている側面はある。新型コロナ感染症がインフルエンザのような感染症として受入れるようになってくれば徐々にこれまでの生活に近づくことになると言

っている学者もいる。

Q 新型コロナワクチンを打った人は運動を控えた方がいいのか？（高校生より）

A プロ野球の中日の20代の投手がワクチン接種し、いつものように練習して意識不明になり、死亡したとニュースがあった。普段の練習で身体を鍛えている方でも新型コロナワクチンの副反応で亡くなることもあるので、激しい運動は控えるように勧告されている。

Q 高齢者のワクチンが優先的に行われたが、若い人にも広がっているので優先された方がいいのではないかな？

A データでは20代の方の陽性者が多いが、コロナによる重症化もほとんどないし、死亡もしていない。それなのに、未来世代の若い人にワクチンを接種させることはリスクでしかない。

《気づいたことや今後の教訓など》

・テレビで放送されている新型コロナ感染症に関して別の視点から見た内容を出来るだけ中立的な立場で話しをした。皆さんが得ている内容とは違うので、アウェーに乗り込んだ気持ちでお話しをした。受け入れてもらえるか正直心配だった。感想用紙を拝見して、自分軸も大切ということは伝わったと思う。テレビ等のメディアで情報を得ている方にとっては、疑問を持たれた方もいると思う。ぜひ、自分なりに調べてほしい。そして、自分で判断してほしい。次の講演の木村医師(健生病院整形外科)も参加していたので、質疑応答タイムには最後に一言助言してもらった。テレビではマスク、ワクチンばかりだが、日常生活では免疫力を落とさないように感染症に負けない体づくりも大切とまとめてくれました。有意義でした。(津川)

